

奈良市教育大綱

令和3年1月
奈良市

目次

第1章 大綱の策定

- 1 大綱策定の趣旨 ……1
- 2 大綱の位置付け ……1
- 3 計画期間 ……1
- 4 社会情勢の変化 ……2
 - (1) 情報化の飛躍的な進展等による新しい社会の到来 ……2
 - (2) 持続可能な社会の実現に向けた機運の高まり ……2

第2章 大綱

- 1 目標・目指す子ども像・目標の実現に向けて ……3
- 2 育成の柱について ……4

1 大綱策定の趣旨

奈良市は、平城京の昔から悠久の時を経て歴史や文化そして伝統が受け継がれる日本で最も古い街の一つです。

これまでの伝統文化を正しく受け継ぎ、さらに新しい文化を創造するために、教育の力が重要です。

現代の日本社会は新しい時代を迎えようとしています。少子高齢化が進み、人生100年時代が到来し、また、超スマート社会（Society5.0）の実現に向けて人工知能（AI）やIoT、ビッグデータの活用等の技術革新が急速に進んでいます。こうした社会の転換期を乗り越え、子どもたちが、豊かな人生を生き抜くために必要な力を身に付け、社会で活躍できるようにする上で、これまでの教育を礎にしながらかも、見直しや新たな方策を取り込むことも必要となっています。

奈良市は、これまで市長部局と教育委員会が常に連携を取りながら子どもたちの教育を進めてきました。積み上げてきたことを大切にしながら、日本で最も古い街で最も新しい取組やチャレンジも続けています。最近の例では、令和2年9月に国の施策GIGAスクール構想のもと、市内小中学校全ての子どもたちにタブレット端末を整備し、ICT機器を活用した新しい教育を始めました。百数十年間、本質的な変化のなかった日本の教育を、今こそ大きく変革する時だと考えています。

今回のコロナ禍の経験を通して、予測困難な時代を豊かに生き、持続可能な社会の担い手を育成するためには、これまでと同様の教育を続けていくだけでは通用しない大きな過渡期に差し掛かっていると誰もが捉えているのではないのでしょうか。

この奈良市教育大綱では、これから5年間の奈良市の教育において、今後の方向性と、推し進めたいことを示しています。

1300年前の平城京は、世界から人・モノ・情報が集まる当時最先端の都市でした。現代の奈良市でも、子どもたちの教育のため、人・モノ・情報を集め、奈良市民の皆様と教育施策の方向性やそのねらいを共有し、奈良市全体で新たな教育を進めるために、この大綱を示します。

2 大綱の位置付け

本大綱は、国の第3期教育振興基本計画、学習指導要領の内容等を踏まえ、地方公共団体における行政運営の最上位計画である「奈良市総合計画」に基づき、教育に関する分野についての目標や基本方針を定めています。今後策定される新たな総合計画を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

また、具体的な施策の展開や事業の実施については「奈良市教育振興基本計画」に示し、本大綱との整合性を図ります。

文化の振興に関しては「奈良市文化振興計画」、スポーツの振興に関しては「奈良市スポーツ振興計画」、また社会教育法に定義されている社会教育に関しては「奈良市社会教育推進計画」を充て、具体的な施策に取り組んでいます。

3 計画期間

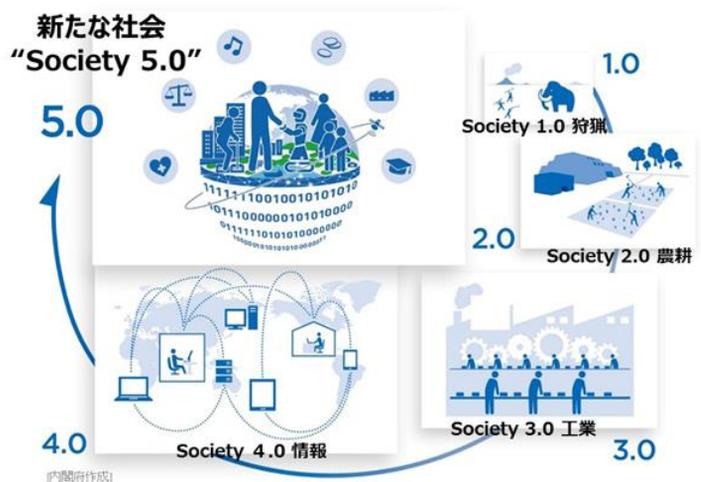
本教育大綱は、令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）までの5年間の計画期間とします。

4 社会情勢の変化

(1) 情報化の飛躍的な進展等による新しい社会の到来

情報通信技術（ICT）が飛躍的に進展し、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）の到来が予想されています。

例えば、情報通信機器のみならず、あらゆるモノがインターネットにつながる技術（IoT）の発達は、モノやサービスが、必要な人に、必要な時、必要な量だけ提供されることを可能にしています。



また、新型コロナウイルス感染症のリスクが確認されたポストコロナの社会では、「新しい生活様式」の実践が提言される等社会秩序が大きく変化し、コロナ禍で急速に進むデジタル化は、日本の働き方や組織形態にも変革をもたらすことが予想されます。

このような「Society5.0」と呼ばれる未来社会やポストコロナの社会の中で、一人ひとりが豊かな人生を実現することができる教育が求められています。

(2) 持続可能な社会の実現に向けた機運の高まり

2015年（平成27年）9月の国連サミットにおいて、持続可能な開発目標（以下、「SDGs」という。）が全会一致で採択されました。SDGsは17の目標（ゴール）と169のターゲットで構成され、地球環境や経済活動、人々の暮らし等を持続可能なものとするために、わが国を含む全ての国連加盟国が2030年（令和12年）までに取り組む国際目標です。



また、SDGsは、世界中の「誰ひとり取り残さない」という、包摂的な世の中をつかっていくことが重要であると強調しており、社会に存在するあらゆるバリアを取り除くとともに、国や地域、人種、ジェンダー、障害の有無等、様々な側面における多様性を受け入れることが重視されています。

教育分野においても、SDGsの理念を踏まえ、持続可能な社会の担い手を育む教育を実践し、未来を切り拓く人間を育成することが求められています。

1 目標・目指す子ども像・目標の実現に向けて

本大綱では、「目標」を掲げ、育てたい「目指す子ども像」を設定します。「目標」「目指す子ども像」の実現に向けて、今後5年間に取り組む施策の方向性を表す育成の柱を定めます。

【目標】

生涯にわたり学び続け、他者と協働して未来を切り拓く人間の育成

これまでの本市教育が培ってきたことを大切に、児童生徒が奈良に誇りをもち、急速に変化する新しい時代を生き抜くために、この目標に掲げ、本市の教育を推進します。

【目指す子ども像】

学校で身に付けたことを生かして、将来直面する課題を周りと議論しながら自ら考え、解決し、未来を切り拓くことができる3つの子ども像を定めます。

みずから学ぶ子

「なぜ？」や「もっと知りたい!」という学びの芽を大切に、自由でユニークな発想ができる子どもを育てます。

とことん学ぶ子

一つひとつのプロセスを大切に、探究心をもち、楽しみながら学びつづけ、最後までやり遂げることができる子どもを育てます。

つながり学ぶ子

友だちとつながり、違う世代の人ともつながる。地域とつながり、社会とつながり、世界とつながる。さまざまなつながりの中で、持続可能な社会の担い手となる子どもを育てます。



育成の柱

「急速に変化する未来に生きる力を育むために」 学校教育の充実

「多様な子どもの学びを支えるために」 教育支援体制の充実

「人生を豊かにする主体的な学びに向けて」 人間力を育む教育の充実

2 育成の柱について

「目標」や「目指す子ども像」の実現に向け、今後5年間に取り組む施策の方向性を表す育成の柱を定めます。

柱1

「急速に変化する未来に生きる力を育むために」 学校教育の充実

- 子どもたちが確かな学力を身に付けるとともに、奈良の良さを深く理解し、これから訪れる急速に変化する社会に対応する力を育成する教育を推進します。

主な取組

ICTを活用した個別最適化された学びの実現

探究学習の推進

小中一貫教育・中高一貫教育の推進

グローバルに活躍する人材の育成

柱2

「多様な子どもの学びを支えるために」 教育支援体制の充実

- 地域と学校、家庭の連携を推進し、教員が児童生徒と向き合うことができる環境を整え、多様な子どもたちに応じた支援の充実を図ります。

主な取組

多様なニーズに応じた教育の推進

地域力を生かした教育の推進

教員の資質能力向上のための環境づくり

柱3

「人生を豊かにする主体的な学びに向けて」 人間力を育む教育の充実

- 生涯にわたり自律的に学び続け、他者と協働して豊かな社会を創造する力の育成を図ります。

主な取組

教室と社会をつなぐPBL^{*1}教育の推進

未来を切り拓く鍵GRIT^{*2}の育成

文理統合Arts-STEM^{*3}教育の推進

*1 PBL (Project Based Learning)

➢ 「課題解決型学習」のこと。自ら課題を発見し、課題解決する過程の中で知識や経験を得ていく学習方法のこと

*2 GRIT

➢ Guts (ガッツ) : 困難に立ち向かう「闘志」、Resilience (レジリエンス) : 失敗してもあきらめずに続ける「粘り強さ」、Initiative (イニシアチブ) : 自らが目標を定め取り組む「自発」、Tenacity (テナシティ) : 最後までやり遂げる「執念」の頭文字

*3 Arts-STEM

➢ 普遍的な論理的思考や基盤となる学力 (Liberal Arts) を養い、Arts (文系) の「発散思考」からSTEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) の「収束思考」に跨がる、文理統合型の「考える力」を獲得する学びのこと